

土さじりの二二三 (二)

大 岩 金

四、害虫駆除

五月六月の候は色々の害虫の最も多く繁殖する時期であります。以下にその主なる害虫の駆除法を簡単に申し述べませう。

1、蚜アブラムシ 虫

ほごんご周年又いつれの花弁、蔬菜、果樹にもつき易いものでありまして一年に何回もなく發生するものであります。すから是は見付け次第早く駆除剤を撒布しなければなりません。

除蟲菊石鹼合劑

水

除蟲菊粉末

石鹼

二リットル

一〇——一五瓦

一〇——一五瓦

製 法

先づ水を煮立たしておきこの中になるべくアルカリ分の少ない良質の石鹼(マルセル又はアルボース石鹼)の粉末になつたものか或は薄く削つたものを入れてよく溶かし充分に混ぜましたならば次に除蟲菊の粉末を入れ更に數回沸騰させて火から下します。是を瓶のやうなものに入れて蓋をして一晝夜そのままにしておきそれよりは随時使用出来ま

使用法

一般に蚜虫は新芽ミか葉の裏なきにつつき易いものでありますから之が駆除を丁寧致しますには筆の如きものを用ひていち／＼蟲體にこの藥劑を附著させるか洗ひ落すかの方法をみるのでありますがこの場合にありましては多少の残渣はありまして差支へないのでありますからこのまゝ使用すればよいのであります。

次にかゝる丁寧な方法による事の出来ない場合には噴霧器を用ひて出来る丈充分に蟲體に液を撒布してやうなければなりませんがこの時には豫め布で藥劑をこして殘渣を取り除いておきません直ちに噴霧口を塞ぎます。この外の注意を致しましては晴天の日を選んで撒布すべきであります。

又この液は永く保存に堪へますのでその點も便利であります。

デリス石鹼液

水

一・八リットル

デリス石鹼

七・五——三〇瓦

デリス石鹼はデリスといふ植物根から取つたデリスの有効成分を粉末石鹼に配合したものでありまして園藝用の藥劑を販賣してゐる店にはどこにもあります。

製法

極めて簡單でありまして一定量の水の中にこのデリス石鹼を入れ約二十分程棒の如きもので充分に溶解して泡立ちます迄攪拌致します。

使用法

充分に溶解しましたものを除蟲菊石鹼液使用の時と同方法にてよろしいのであります。唯使用中にも時々交ぜます事が必要であります。又是は使用の都度調製し永く保存しない方が効力を失はなくてよいのであります。

藥劑を撒布しました後直ちには蟲は死んだやうには見えませんが數時間の後には黒くなつて死にその場に附いてゐるのであります。

この外販賣品にはチオトン、エキスルオール、リクイッドインヤクチサイド、硫酸ニコチンなぎがあげられていづれも蚜蟲の驅除劑として用ひられるのでありますがその稀釋法なぎも夫々に容器に記載されてありますからこゝには省略しておきます。

2、根切蟲

この蟲は年二回即ち五、六月頃と九月に發生しまして冬には幼蟲の状態で土中で越冬するのであります。

體長には種々ありますが十分生育しましたものは三厘位にもなりまして色は全體黒褐色で脊に黒點があり始めは青

くて尺取蟲のやうに運動して居りますが後に漸次黒くなつて土中に入るのであります。

驅除法

植付してあります苗を見廻ります時に他の苗よりも一際目立つて威勢のわるい時とか地に植はりながら枯れたやうに見えます場合にはその根際を少し掘りおこして見ますならば大抵の場合こゝに根切蟲が潜在してゐるのであります。それ故これが驅除法として最も確實で簡單であります。それは捕殺によるのであります。極めて小さい時にのみ地上にあつて葉や芽をあらし多くの時に地に入つて居るこの根切蟲にはあまり藥劑を用ひても効が少ないのであります。又冬期の驅除法をしましてなるべく深く耕して寒氣にさらして死滅させるのも一方法であります。

3、夜盜蟲

冬の間蛹で越したこの夜盜蟲は四月下旬から五月の上旬にかけて蛾となり葉裏に産卵し六月の中旬頃までには既に幼蟲となるのであります。かくて葉裏から食害し始め終には葉脈丈を残して全部食べ盡してゆくのであります。そし

て極く小さい時には晝夜共葉裏に居て葉を食べて居ります。が大きくなるに及び晝間は地中に隠れて夜間又は曇天に地上に出てあらすのであります。それ故この名を得たといはれて居ります。

驅除法

曇天又は夕方になりまして畑に出て地上にあらはれられた所を捕殺するのも一方法であり又晝間にありましては既に食害されかけて居る株又は附近の株の廻りを掘りおこしてこの中にかくれて居るのを捕殺するのも一方法であります。

藥劑を使用致します場合には砒酸鉛を用ひるのであります。

水

一〇〇リットル

砒酸鉛(粉状のもの)

〇・五——一封度

是にカゼイン石灰を砒酸鉛の三分の一乃至六分の一を入れます時は粘着力を増し葉害を防ぎますので一層効果を著しくするのであります。

砒酸鉛には粉状の外糊状のもありましてこの場合には粉

狀の二倍量を使用するのであります。

製法

砒酸鉛を袋に入れ水中で練りながら揉み出します。

カゼイン石灰使用の場合には豫めカゼイン石灰を水にこかしておき之の中に前同様の方法で揉み出せばよいのであります。

使用法

降雨の心配のない日を見て噴霧器で食害されさうな部分に全部撒布しておきますればやがて之を食し二三日経つ中には死ぬるのであります。

撒布の際注意します事は度々液を攪拌致しまして沈澱させないやうにする事であります。

又使用の時期をしましては産卵しましたものゝ大部分が孵化した頃一回こゝ、それから凡そ十日間おきに三回位續けてやりますれば大方の夜盗蟲を驅除する事が出来ます。

その外地を耕して居りますれば根切蟲に似た金龜蟲の幼蟲も居ります。是も見付け次第捕殺しなければなりません。

又葉櫻になり樗、樫なぎの若葉も次第に茂つて参ります。是を侵す毛蟲の類も早く見付けて巢の中からはひ出て擴がらない中に焼却する事も忘れてはならないのであります。

日本幼稚園史成る

倉橋、新庄兩氏の共著「日本幼稚園史」は愈々五月十八日發賣せられることになりました。待望の此の書も今度こそ皆様の机邊に迎へられることを喜びます。